



街の身近な健康相談

vol.27

親和性の高い中医学を 選択肢の一つに

「起立性調節障害」をご存知だろうか。自律神経の調節がうまくいかず、起立した際に脳への血流が低下することで不調が起る病気だ。

めまいや立ちくらみ、朝の起床困難、頭痛、腹痛、不眠や倦怠感など、症状は人によってさまざまだが、成長期に発症するケースがほとんど。現在、中学・高校生の10人に1人が悩んでいるといわれており、病気が引き金となつて不登校になってしまう子どもも少なくない。治療法が確立していないため、全国的に問題視されているのだ。

この病気の改善のため、中医学（中国の伝統医学）的なアプローチで取り組んでいるのが、札幌市北区の「カシダ天光堂」代表・榎田美保さんだ。「起立性調節障害は体調不良だけでなく、人間関係や

漢方を扱う「街の薬屋さん」は、誰でも気軽にに行ける健康相談スポット。今回は、札幌市北区で漢方相談を行っている「北海道中医学研究会」の榎田美保さんに話を伺いました。

起立性調節障害の改善に 中医学でアプローチ

活面のアロパイスを行い、適切な中成薬（漢方薬）を選ん で対処する。「子どもは誰一人として同じではありません。一人一人と向き合う中医学とこの病気は、親和性が高いと実感しますね」と語る。

取り組みのきっかけを、「息子が中学2年の時、この病気で学校に行けなくなつてしまったことです」と話す。「親にとって子どもはアキレ

親子関係など、子どもの成長段階におけるさまざまな問題を含んでいるのが特徴です」。中医学の基本は「弁証論治」だ。四診といわれる技術を使って、じっくりと時間をかけて話を聞き、顔色や舌、声の調子などから状態を読み解いていく。本人の体質はもちろん、背景まで把握した上で生

ス腱。責任を感じて親のメンタルも大きなダメージを受けます。本人も家族もつらい思いをする病気で、そこも大きな問題になっていきますね」。

中医学には、子どもの薬はまず親が飲み、大丈夫かどうか確認してから飲ませる「母子同服」という大切な教えがある。榎田さんは子ども

に中成薬を出す際、3日間は親にも飲んでもらうそう。消化器と脳は互いに影響を及ぼすことが知られており、「腸」は子どもの発達に重要なポジションを占めている。「消化吸収を助ける晶三仙などの健康食品や、老廃物（中医学でいう「痰」）の排出を促すことで胃腸の調子を整えて、不眠や神経症を改善するイスクラ温胆湯エキス顆粒などの中成薬もあります」。子どもに関する悩みも、お近くの会員店に気軽に相談してほしい。



お答えします！
代表 榎田 美保さん

カシダ天光堂

登録販売者、国際中医専門員、医科学修士。「2022年から『起立性調節障害を3か月で笑顔にする!おはなし会』を開催中。3年間で全都道府県を回る予定です」



店舗はJR篠路駅の近くにある

札幌市北区篠路3条5丁目6-27
電話：011-771-1810
営業時間：9:00～18:00
定休日：日・月曜
<https://www.instagram.com/kashidatenkodo/>



®KASHIDATENKODO

中医学研究会の
マスコット・冠元です。
今年で21歳。
実は孫も2頭います



成都大熊猫繁育研究基金会
<http://www.panda.foundation.com/>

パンダ保護養育活動

日本中医学研究会は、中国・成都のジャイアントパンダ繁殖研究基地にいる「冠元」の養育費寄付を通して、自然保護活動を行っています

北海道中医学研究会について

北海道中医学研究会は、中医学の理論と臨床経験に基づいて、地域医療への貢献を目指す団体。道内各地に全41店舗の会員店があります。



札幌地区16店舗をはじめ、道内各地の会員店の詳細は、左のQRコードにアクセスすると見ることができます

<https://hokkaido-kanpo.com/>

北海道中医学研究会

ニ－ハオ・シンジン

